

【 福島万言う記 】

茨城県笠間市 行動隊員 高橋 済

「福島原発行動隊」に参加したのは、檜葉町に居住していた長男夫婦が避難して来て、ネットで見つけ、「親父、参加したら？」だった。以来、常磐高速道の友部 SA の近くに住む地の利を活かし SA で拾ってもらうことで、福島での活動に参加できる機会を得ている。

数年前から、福島への参加メンバーがかなり固定され、気が知れるようになった。おかげさまで、福島への車中でみなさんの貴重な経験を聞かせていただいたり、この歳（76歳）でもまだ理解のできない多くの疑問に答えをいただく幸運に恵まれている。

会社時代から私が受けている風評に「話が長い、くどい、口うるさい高橋」がある。私の幸運はみなさんの不運と言わねばならないが、矢継ぎ早の愚問、暴論に辟易しながらも、みなさんは持ち前の大人力で受け流してくれる（ゴメン）。

車中での私の長い長い質問タイムが終わると、今度は私の趣味/好みの開陳/強引なお勧めとなる。Aさんには目下、DVD 再生機の購入を無理強いしている。米国のテレビドラマ『ホワイトハウス』をぜひ観て欲しい、これを観ずして逝ってはならぬと思うからだ。このドラマは私の人生で観た最高の政治ドラマで、泣きながら笑いながら感動する。このような大統領がもしいたら、世界は幸せになるだろうと。

車中の話で外せないのは女性の美脚だ。美脚であると言う理由だけで、小池百合子を認めてしまう私の暴論に、車中の一同があきれられる。

身の程をわきまえぬ私の数々の暴論の中で、唯一、Aさんも同感に違いないと踏んでいるのは、ヴァイオリンの奏者は女性に限定！男が弾くのは〇〇のようで、以ての外！

何はともあれ、楽しくさせてくれる車中があるので、福島への参加はいつも楽しみだ。だから、地元で多くのボランティアを毎日していても、よほどの先約がない限り、福島が最優先となる。

帰還困難区域に位置する、Kさん宅の広大な敷地の草刈りにお供することが多い。ある草刈りの回で、敷地に大きな鉄製の檻があることに気づく。聞けば行政が設置したイノシシ捕獲用のこと。



大昔よりこの地に棲む彼らは、いつからか人間の侵略で山地に追いやられた。今、彼らは人間の失敗に乗じて「約束の地」への思いがけぬ帰還となった。しかし受難はつづく。Kさん宅の檻ではまだ捕獲がないようだが、捕獲され

たら行政はどうするのだろうか。わなで傷ついた体の治療をして、山地に放逐するのだろうか、それとも・・・。

私の川柳：治療終え放されたカモ撃たれ死す
（『毎日新聞』に掲載）

傷ついた野生動物を救う人、それを撃って楽しむ人。束の間のカモの安寧とイノシシの「約束の地」で待つ運命に、柄にもなく世の無情を感じる。せめて「駆除されるイノシシ来世なれパンダ」のメールを送り、無駄に長い【万言う記】を終える。

第 73 回院内集会「福島県の水産物と魚の汚染状況モニタリング報告と今後の課題」報告

1. 講演の目的

福島県における海産魚介類の放射線モニタリングと試験操業への取り組みについて、現状と今後の課題について認識を深める。

2. 講演概要

(1) 講演者：平田豊彦氏（福島県水産海洋研究センター 放射能研究部長）



(2) 講演内容（主要なポイント）

① 福島県の漁業の特徴

- ・ヒラメ、カレイ等の高級魚（常磐物）が獲れる。
- ・相馬・双葉地区では底引き漁、さし網漁などの沿岸漁業が主流である。
- ・いわき地区では沿岸漁業に加え、イワシ巻き網漁、さんま棒受網などの沖合漁業も盛ん。
- ・災害前の水揚げ量：39000 トン（平成 22 年）、沿岸漁業の割合が多く、水揚げ量は漁業全体の 6 割、金額では 8 割。

② 被災状況と放射性物質の影響

- ・被害額：824 億円弱。

② 魚介類の放射線モニタリング、調査研究

- ・平成 23 年 4 月から海産魚介類への放射性物質の影響を調査。

- ・現在、海産魚介類は毎週 150 検体程度実施、海水・海底土は沿岸域、漁港、磯部沖で毎月実施。

<モニタリング結果>

- ・海水の放射性セシウム濃度：福島第一原発南側沿岸で最高値を検出（平成 23 年度）。

- ・直接海へ漏洩した汚染水は、福島県沿岸を南下した後、沖合へ拡散したと推定。

- ・魚介類の種類によって、放射性濃度の低いもの（回遊性魚類、深海性魚類、世代交代が早い魚類）と、そうでないもの（事故後、沿岸域に流出した高濃度の汚染水にさらされた魚類）が認められ、ヒラメ、マアナゴは長期的な放射能蓄積が高かった。

- ・第一原発から 5km 以上の海水の放射性セシウム濃度は事故前の水準に近づいている（平成 28 年度）。

- ・5km 内でも 0.18Bq/l 程度まで低下している（平成 28 年度）。

- ・海底土中の放射性セシウムによる餌料生物への汚染は心配ない。

- ・海産魚介類の放射性セシウム濃度は明確に低下している。

- ・平成 27 年 4 月以降、国の基準値を超えた検体はゼロ。

- ・平成 29 年は年間合計 98%の検体が濃度不検出

③ 試験操業の取組みと今後の課題。

- ・平成 24 年 6 月から、魚種を限定し、小規模な操業と販売を試験的に実施。

- ・漁協の自主検査：県漁連は自主基準を 50Bq/kg（国の半分）に設定 → ほとんど不検出

- ・現在、出荷制限魚種以外の全ての魚種を試験操業対象としており、平成 30 年 6 月現在、約 180 種が水揚げ対象。

- ・漁獲量は着実に増加しているが、平成 29 年の漁獲量は、震災前 10 年平均の 13%と低い。

- ・東京都、宮城県、愛知県など 31 都道府県へ販売拡大。

<販売状況>

- ・価格は概ね他産地と同等。

- ・他産地での生産が多い魚種では福島県産は売れにくい。

- ・中には福島県の魚を買わない業者もいる。

<今後の課題>

- ・漁業日数や操業時間の増加による漁獲量の拡大

- ・産地市場における取り扱いの拡大（生産者、仲買業者、作業場等の増加）。
- ・消費地市場における価格低下、売れ残り（商品過剰）対策。
- ・高鮮度で良いものを出荷する。
- ・イベントや様々な機会に情報発信する。

- ・「福島鮮魚便」のスタート（平成30年6月スタート）：イオンスタイル品川シーサイド店他、イオン・イオンスタイル首都圏5店舗に常設鮮魚コーナーを設置（福島県水産物競争力強化事業）。

講師資料：<http://svcf.jp/wp/wp-content/uploads/2018/09/73syu-kaishiryuu.pdf>

事実を追求して(院内集会シリーズ「低線量被ばく」を終えて)

行動隊員 中島賢一郎

事実を追求しようとする限り、政府刊行物のような権威のある文書などに対しても疑問を提起し修正を提案しなければならないこともあります。2018年3月に復興庁が刊行した小冊子『放射線のホント』に対して市民グループがその冊子に掲載されているデータの扱いに誤りがあると指摘しました。他方、わたしたち福島原発行動隊が2018年3月から4回にわたって行った院内集会のシリーズ講演で得られた知見をベースにこの冊子を開いてみると、前記の引用データの問題とは別に、いくつかの記述に疑問を抱きました。

『放射線のホント』は、放射線についての無知から生じる偏見・差別・風評被害による福島県民の苦しみを軽減することを目的としています（文末注※1）。

8月9日、この冊子の内容について、独立系のニュースサイト「OurPlanet-TV」が「記述を見直しへ～復興庁『放射線のホント』」という記事を配信しました。（文末注 ※2）

放射線問題に取り組む市民グループ「放射線被ばくを学習する会」のメンバーらが同日、この冊子の23～24ページに掲載されている食品と飲料水のデータの扱いに誤りがあると指摘。飲料水の米国の基準は1キロあたり4.2ベクレル、EUでは8.7ベクレルで、日本の10ベクレルより低いことからすると、「世界で最も厳しい基準を設定している」との記述は誤りであるとして訂正を求めたのです。

さらに、この冊子のデータのもとになっている消費者庁が作成した「食品中の放射性物質に関する広報資料」についても、諸外国のデータの「緊急時」の規制値と比較しているため、日本と同じ「平時」のデータで統一するよう、表現の変更を求めたというのです。

8月11日の「放射線被ばくを学習する会」のホームページによると、このグループは、厚労省、消費者庁、復興庁に申入書を提出、8月9日午後、3省庁と交渉し、3省庁とも飲料水放射性セシウム基準値の誤りを認め、訂正することを明らかにしたということです。（文末注 ※3）

ところが8月28日の「OurPlanet-TV」は、復興庁の吉野正芳大臣（行動隊の院内集会の講師をされたこともあります）は、同日の閣議後の記者会見



そのことをご報告し、院内集会シリーズについての私なりのまとめとします。

SVCF 通信：第102号 2018年9月21日

で、復興庁の作成した『放射線のホント』に「誤りが指摘されているのではないか」との質問に、「間違っただけ情報は記載していない」ときっぱり否定しました。(文末注 ※4)

筆者にはこれらのデータの正誤を判断する知識はありませんし、「OurPlanet-TV」以外のメディアの裏付け記事も目にしていません。ことは引用データの正誤なので真偽はいずれ明らかになると思います。

福島原発行動隊主催の3月からの院内集会シリーズ講演は、「低線量被ばくの現状と被ばくの影響の評価」をテーマとし、各回以下の講師にお願いしました(報告は文末注 ※6)。

- ・3月29日第70回、神田玲子氏(量子科学技術研究開発機構・放射線医学総合研究所)
- ・4月26日第71回、古川勝弘氏(福島県環境保全農業課主幹)
- ・7月26日第72回、秋葉澄伯氏(公益財団法人 体質研究会主任研究員)
- ・8月30日第73回、平田豊彦氏(福島県水産海洋センター放射能研究部長)

さて、『放射線のホント』はその9ページで「放射線を受けたことによるヒトの遺伝性影響を示す根拠は報告されていません」(下線は筆者、以下同じ)ということを根拠に、放射線の影響は子どもや孫に遺伝しない、と言いきっています。

しかし、72回院内集会で、秋葉講師は、広島での被爆者の中で子どもに遺伝的影響があった例は見つかっていない。一方、その他のがんリスクに比べて線量当たりの発生確率はかなり小さいが、動物実験などでは遺伝子に異常が見られた実験例があったとおっしゃっていました。実験動物に比べてきわめて世代交代のスパンの長いヒトにおいて今まで報告がないということだけを根拠に、被ばくの影響はないと言いきってしまうことが妥当なのでしょうか？

同15ページには低線量被ばく(100 mSv以下)による放射線によるがんのリスクと生活習慣によるがんのリスクを対比させた図が掲げられています。

100~200 mSvの被ばくによるがんのリスク増加は1.08倍で、野菜不足によるリスク増加1.06倍、塩分の取りすぎによるリスクの増加1.15倍の間になっています。

一方、第70回・72回の集会では疫学調査における交絡因子という概念を学びました。がんの発症という結果に対しては複数の要素(交絡因子)が同時に関わっていて、そのがんの発生の原因をある要素に還元することは難しいそうです。

また同19ページでは、「(被ばくで)将来的に病気になる人が出てくる心配はないの?」という問いへの答えとして、「原子放射線の影響に関する国連科学委員会(UNSCEAR) 2013年報告書」(文末注 ※5)からの引用で「チェルノブイリ原発事故のような放射線による多数の甲状腺がんの発生を福島県では考える必要はないと評価されています」と書かれています。

しかし同報告書の引用文の直前の記述は、「その中で上限に近い甲状腺吸収線量では、十分に大きな集団において識別可能な甲状腺がんの発生率上昇をもたらす可能性がある。幼少期および小児期により高い甲状腺線量に被ばくした人々の間で甲状腺がん発生率が上昇するかどうかを見極めるという点に関して本委員会が確固たる結論を導くには、線量分布に関する情報が十分ではなかった」というものです。この問いと答えはマッチしていません。

また第70回集会で神田講師は、福島県県民健康調査委員会が中間とりまとめとした、福島県の子どもの甲状腺がんの多発が被ばくによるものでないかどうかについては、小児甲状腺がんの潜伏期間を考えると、科学的な論争に結論を得るには10年程度が必要と報告されています。

21ページでは、福島県内の7都市の0.03 μ Sv/時~0.15 μ Sv/時という空間線量率と高自然放射線の地域例としてインド・ケララ州の1.05 μ Sv/時という線量率が一つの地図の中に示されています。ここで示されている7都市のうち南相馬市を除く6都市は避難指示が出されなかった都市です。

さらに、2015年に国が示した避難指示解除の要件は、空間線量率で推定された年間積算線量が20ミリシーベルト以下になることとされており(「原子力災

害からの福島復興の加速に向けて」改訂 平成 27 年 6 月 12 日原子力災害対策本部決定・閣議決定)、これをこの地図に示された μ Sv/時に直すと 2.28 μ Sv/h とケララ州の数値の 2 倍以上になります。

こう見てくると、この冊子は事実を伝えてはいるけれど(冒頭の食品と飲料水のデータについては保留します)、事実の全てを伝えてはいないと言わざるを得ません。

第 71 回・73 回集会では、福島県産の農水産物に含まれる放射性物質が基準値以下であるのに、需要が事故以前のような水準に戻らないという実情が縷々報告されました。これをデマあるいはプロパガンダとしての風評によるものという見方もあります。しかし筆者は、復興を進める国が、進める条件として示す低線量被ばくの実態や影響について事実の一部しか伝えようとしていない(ように見えてしまう)ことも、逆に復興政策に対する不信感を払しょくできない原因の一つではないかと考えます。

.....

4 回の院内集会シリーズ「低線量被ばくの現状と被ばく影響の評価について」に参加して、政治家、行政等の住民の苦しみに向き合う臨床家が、住民が直面する偏見・差別・風評被害、あるいは長期の避難による心身の不調をまず軽減したいという意図は分かっていたつもりです。

しかし同時に、「福島県の復興」というゴールに向かって何より必要な「できるだけ広い範囲の合意形成」のためには、正確な事実、評価の分かれる事実については両方の評価を示していくことが、結局は早道であると痛感しました。

さらに、第 73 回集会で行動隊員のひとりが、集会に参加された牧山ひろえ参議院議員に訴えたように、できるだけ多くの議員あるいは議員秘書の方々に、福島第一原子力事故およびその影響についての事実を追求している行動隊の院内集会に参加していただき、事実についての共通の認識を持たれたうえで議論を戦わせ、合意できるものについてはできる限り広い範囲で合意されていくことを切に願います。

注

※1

http://www.fukkopr.reconstruction.go.jp/2017/senryaku/pdf/0313houshasen_no_honto.pdf

※2

<http://www.ourplanet-tv.org/?q=node/2293>

※3

<http://anti-hibaku.cocolog-nifty.com/blog/2018/08/post-4c13.html>

※4

<http://www.ourplanet-tv.org/?q=node/2302>

※5

http://www.unscear.org/docs/reports/2013/14-02678_Report_2013_MainText_JP.pdf

※6

福島原発行動隊の院内集会シリーズ講演

・3 月 29 日第 70 回「福島原発事故に伴う低線量被ばくの実態と被ばく影響評価の現状」、講師:神田玲子氏(量子科学技術研究開発機構・放射線医学総合研究所) 報告:

<http://svcf.jp/archives/6652>

・4 月 26 日第 71 回「福島県における農産物、魚介類の放射能の実態」、講師:古川勝弘氏(福島県環境保全農業課主幹)

報告:

<http://svcf.jp/archives/6674>

・7 月 26 日第 72 回「低線量自然放射線の人体影響に関する調査研究の成果(分かったことなど)」、講師:秋葉澄伯氏(公益財団法人 体質研究会主任研究員)

報告:

<http://svcf.jp/archives/6799>

・8 月 30 日第 73 回「福島県の水産物と魚の汚染状況モニタリング報告と今後の課題」講師:平田豊彦氏(福島県水産海洋センター放射能研究部長) **本号第 73 回院内集会報告参照**

院内集会第2シリーズ「原発事故被災県福島」の復興」予定

行動隊では10月以降の月例院内集会について以下のように予定しています。

福島の今について地元福島の様々な立場から語っていただきます。質疑の時間も十分に取ります。

時間は11時～13時。会場は概ね参院議員会館会議室ですが、決まり次第お知らせします。

まず聴くことが最初の支援です。院内集会に参加しましょう！

- ・ 10月18日（木）松本幸英/檜葉町町長
- ・ 11月15日（木）北村俊郎/元日本原子力発電株式会社理事
- ・ 12月13日（木）上野敬幸/復興浜団代表
- ・ 2019年1月17日（木）小野明/東京電力ホールディングス福島第一廃炉推進カンパニー プレジデント
- ・ 2月14日（木）渡部千恵子/NPO「大熊町ふるさと応援隊」理事長

「ふくしま再生の会」主催・稲刈り参加募集

5月に「ふくしま再生の会」主催の田植で植えた稲が順調に育ち、稲刈りの時を迎えました。

以下の要領で参加者を募集します。

■参加申し込み先=杉山

nora@cityfujisawa.ne.jp

■日 時 10月6日（土）～7日（日）

■作業予定 10月6日（土）=放射能測定用に稲（坪狩り）と土壌の採取。

10月7日（日）=稲刈り

■用意するもの=長靴（田植用）ないし地下足袋。
参加希望者には後日、個別に必要な備品については連絡します。

■参加締切 9月21日（金）10時30分

■交通手段 参加人数を見て最終決定します。現時点では10月6日の10時30分に福島駅に集合の予定です。福島駅から現地までは「ふくしま再生の会」の参加者と合流して駅のレンタカーに分乗して飯舘村・佐須に行きます。

■宿 泊 霊山センター

★1泊2食（～3食）お一人1500円のカンパをお願いします。

★シーツ「2枚」持参（寝袋用シーツでも構いません）。持参されない場合は実費（1,000円）負担。

<行動隊10月スケジュール>

下記の活動はだれでも参加できます。参加をお待ちしています！

・院内集会

18日（木曜）、松本幸英檜葉町町長

・連絡会議（会場は淡路町事務所、右の地図参照）

5（金曜）、6（土曜）、12（金曜）、18（木曜、院内集会後）、26（金曜）

